



福島医大病院ニュースレター

編集・発行/附属病院患者サービス向上委員会

〒960-1295 福島市光が丘1番地 / TEL (024) 547-1111 ホームページ <http://www.fmu.ac.jp/byoin/index.php>

東日本大震災 100日を振り返って

病院長 村川 雅洋

3月11日に発生しました東日本大震災とそれに引き続く東京電力福島第一原子力発電所の事故によりまして、お亡くなりになった方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様、そして避難生活を余儀なくされている皆様に心からお見舞いを申し上げます。

本院は、地震発生後、入院・外来患者の皆様の安全確保を行うとともに、被災された皆様、特に重症患者さんの診療を行ってまいりました。ただ、本院の施設・設備には重大な損壊はなかったものの、断水と流通物資の不足により、一般外来診療や手術・透析の制限などを余儀なくされました。その後、通常機能を回復するまでには、およそ3週間を要しました。この間、原発内の被ばく・負傷作業員の方々の除染・治療、退避地域からの転院患者さんの受け入れと域外搬送、避難住民の皆様の放射性物質汚染スクリーニングも行いました。さらに県内の避難所を隈無く巡回して、一般診療、保健指導のみならず、心のケア、小児科診療や感染制御、超音波診断装置を駆使した深部静脈血栓症スクリーニング

など、高度な医療の提供も継続して行っております。これらには、全国、世界中から多くのご支援をいただいていることに紙面を借りまして感謝申し上げます。

今後も長期にわたる県民の皆様の健康管理を含め、地域医療の再構築を成し遂げ、安心して暮らせる福島を取り戻すことがわれわれに課せられた使命と考えております。この新たな使命を達成すべく歩を進めてまいりたいと存じますので、御理解と御協力をお願い申し上げます。



正面玄関でのスクリーニング

東日本大震災をから4ヶ月

副病院長兼看護部長 中嶋由美子

3月11日の東日本大震災から4カ月が過ぎました。入院中の患者様・外来受診中の患者さん・職員のみなさんには、怪我がなく本当に良かったです。1週間、断水になり水の使用制限になったことは病院としては、治療や看護ケアが十分に提供できなかったことで患者さんには、大変ご不便をおかけいたしました。しかし、停電にならなかったことは、不幸中の幸いでした。災害拠点病院として、重症な患者さんの受け入れ体制をとるとともに全国からのDMAT（災害支援医療チーム）の参集の場所になりましたが、予想外に重症外傷の患者様は搬送されませんでした。その後、原発の事故により、相双地区の病院や施設からの患者さん受け入れが始まりました。医師・看護師・事務職員は、夜間帯でも対応できるよう通常より多くの人員を配置しました。また、本学の学生ボランティアの協力があり、地震当日の患者搬送や面会の方々の対応など力を発揮してもらいました。患者の皆様

には、しばらくの間、通常の外来や手術ができなくなり大変ご迷惑をおかけいたしました。4月になり全ての業務は通常に戻っております。看護部としては、4月から新採用者54名のスタッフを迎え、新年度をスタートいたしました。職員一丸となり、県民の健康を守るため進んでまいります。



学生ボランティア



地震直後の室内



商品が消えた売店陳列棚



自衛隊ヘリ



海上保安庁ヘリによる患者さん搬送



ドクターヘリによる患者さん搬送



全学全職種ミーティング



避難所に向かう医療チーム



患者さんの搬送を待つ救急車



看護学部棟における患者さん受入準備



避難所での医療支援



全国から寄せられた支援物資の一部



他病院患者さんを一時受け入れるロビー



病院敷地内の線量を測定する職員

世界各国、全国からご支援ご協力いただいた皆様、心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。